



日台友好！ 若手ヘルパーで異文化交流



台湾から介護を学ぶ学生さんが5名来日し、実習の合間にくまちゃんハウスで交流会を行いました

7月11日と16日の2回、グレースケアからは10代・20代の若手7名と中国語堪能な田中ヘルパーらが参加。まず会社案内と自己紹介を行い、好きなものは漫画にスイーツ！と和んだところで、一緒にスーパーへ買い出しへ。わいわいと台湾料理～エビ玉炒め、野菜炒め、酸辣湯、台湾風焼きそば～を作り、「味付けが絶妙」「唐辛子がピリッと辛くて美味しい！」と、本場の味わいを堪能しました。最後はジブリ美術館に送ってお別れしました。



2日目は、逆に実習生さんたちから、日本のドロツとしたカレーを食べたい！とリクエストがあり、調理実習しながら、中国語と日本語、英語を織り交ぜながら協力して美味しいカレーを作りました。台湾のカレーは水っぽいのだから。

そのほか、くまちゃんハウスの人気者、LOVOTくんやロボホンなどのロボット体験も大盛り上がり。でこちゃんでは夏祭りに飛び入り、テレサテンの『時の流れに身をまかせ』を日本語で歌い、おばあちゃんたちからも自然と手拍子が！



8月「帰国後に報告会を開きました」と写真入りでお知らせいただきました。引率の李劭懐先生によると、介護の人材不足は日台共通の課題とのこと。今回、次代の介護を支える若い仲間と海を越えて交流することができました。この素敵なお縁を大切にしたいです。

実習生の皆さん、李先生、今度はこちらから行きますね！



市民活動フォーラム ～おひとりさまから、まちづくりまで～

9月17日から25日まで、「みたか市民活動・NPOフォーラム」が開催され、グレースケアも参加しました。3年ぶりにリアル展示や企画も復活！

オープニングセッションでは「みたか de SDGs」をテーマに、子どもや農業、貧困、ひきこもりなどに関わる30余の団体が次々登場し、SDGsの目標とともに活動を報告しました。グレースケアは「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくり」。障がいや年齢を問わず暮らしを愉しむことができ、地域の人材や空き家などの資源を活かしたいと伝えました。

今年は国際基督教大学などの学生さんたちも多く参加して、グループワークでも率先して意見交換。「クラスで討議するよりも、温かくていい！」なんて声も。老若多様な人が集まり、今後のつながりを期待させるイベントでした。



← オンライン展示はこちらから

9月23日には、セミナー『おひとりさま、最期の迎え方～身辺整理から看取りまで～』を行い、35名が参加しました。

まず片づけヘルパー永井美穂から「キレイにすることより、暮らしやすくすること」「『死ぬ準備』ではなく『余生を快適にする工夫』」というモットーを紹介。遺品の整理をきっかけに地域と繋がった例から、旅立ちの備えや心の整理について話しました。

続いて終末期ケアをしてきた加守田久美から、おひとりさまの急増と多職種連携の実践、自費も交えた長時間ケアで逝かれた女性の話から、それぞれの大切な人生の締めくくりを支えたいと語りました。質疑では、医師や家族に対してヘルパーが果たす役割、認知症の方への関わり方の工夫などが挙がりました。

まちなかの住み慣れた家で、最期をまっとうしたい。おひとりさまでも大丈夫！そんな希望を感じられるセミナーでした。ご参加の皆さまありがとうございました。

上野千鶴子さん&グレースケア

「おひとりさまプラン」をリリース！

新刊『最期まで在宅おひとりさまで機嫌よく』（中央公論新社）のなかで、上野さんと相談して作ったプランが紹介されています。定額の契約で家のことや介護のほか、緊急対応、看取りから亡くなった後の手続きまで担います。

